

まい 埋やち

No.14

千葉県八千代市

埋蔵文化財通信

2007. 9. 10

(平成 19 年)

浅間内 (あさまうち) 遺跡特集(1)

八千代市は、東葉高速鉄道「村上駅」周辺の辺田前(へたまえ)土地区画整理事業に伴い、平成6年から平成16年にかけて、浅間内遺跡の合計約23,000㎡を断続的に調査しました。調査報告書は、部分的に発行してきましたが、平成17・18年度に最終的な整理を行い、遺跡のほぼ全貌を報告書にまとめることができました。そこで特集を組むことにいたしました。

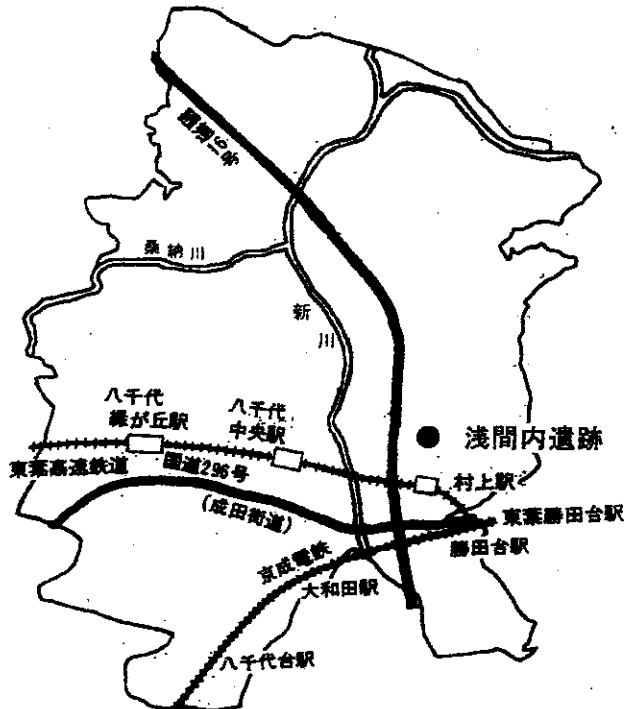
【浅間内遺跡の位置】 浅間内遺跡は、八千代市の南東部、新川の東岸の大字村上にあります。辺田前・沖塚前低地(村上・辺田前の入り江)を南に臨む台地上、標高24~26mのところ立地しています。遺跡の西端には浅間(せんげん)神社が鎮座し、地名の由来となっています。なお現在の浅間神社は区画整理に伴い元の位置よりも北に遷(うつ)されています。

【遺跡の概要】 浅間内遺跡は、旧石器時代から近世にわたる遺跡で、各時代とも興味深い内容を持っています。

旧石器時代 遺物の出土箇所が5地点ありました。

縄文時代 中期前半を中心に、草創期(そうそうき)~後期の遺物が出土しました。遺構は、竪穴住居跡(以下「竪穴」は省略します。)が2軒、動物を捕獲するための落とし穴が25基、その他のピット(穴の跡)が154基などです。

弥生時代 後期の住居跡19軒、ピット5基が出土しました。わずかですが中期の土器が後期住居跡の遺物に混じっていました。また台地北西端に、墓跡と考えられる方形周溝状遺構(ほうけいしゅうこうじょういこう)2基があり、弥生後期の土器片などが出土しています。

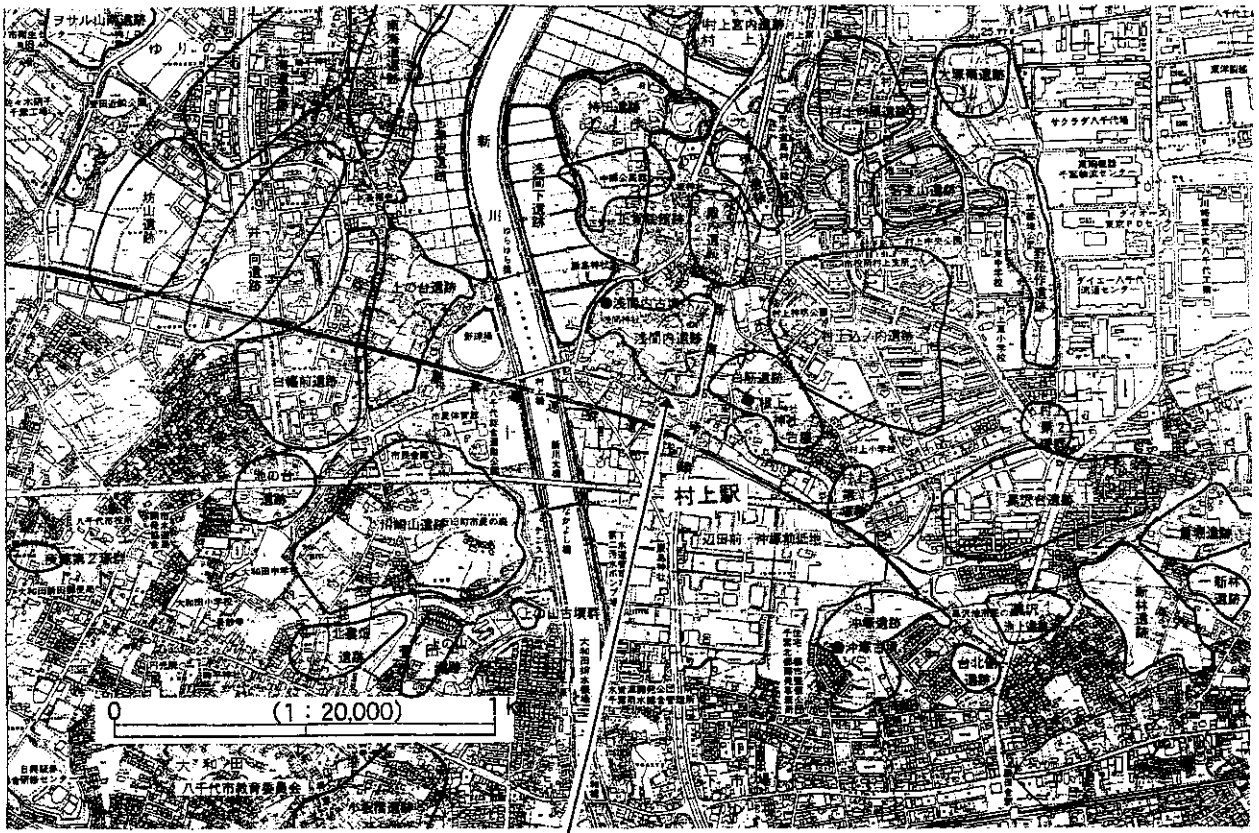


古墳時代 台地北西端に前期古墳(浅間内古墳)がありました。前期~中期の住居跡14軒、中期~後期の住居跡17軒、その他の住居跡1軒、ピット38基が出ています。

奈良・平安時代 奈良時代住居跡が39軒、平安時代住居跡が25軒、平安時代特殊遺構1基、奈良平安時代の掘立柱建物跡(ほったてばしらたてものあと)10棟、ピット群2箇所、ピット52基が出ています。

中・近世 中・近世のピット10基、江戸時代墓跡1基。溝は36条を数え、各種・各時代の遺物が出ていますが、中・近世の遺物も多く含まれます。他に中世の板碑転用石製品(いたびてんようせきせいひん)や江戸時代の十九夜塔(じゅうくやとう)が出土しています。

近・現代や時期不明 炭窯(すみがま)やピットが203基ありました。

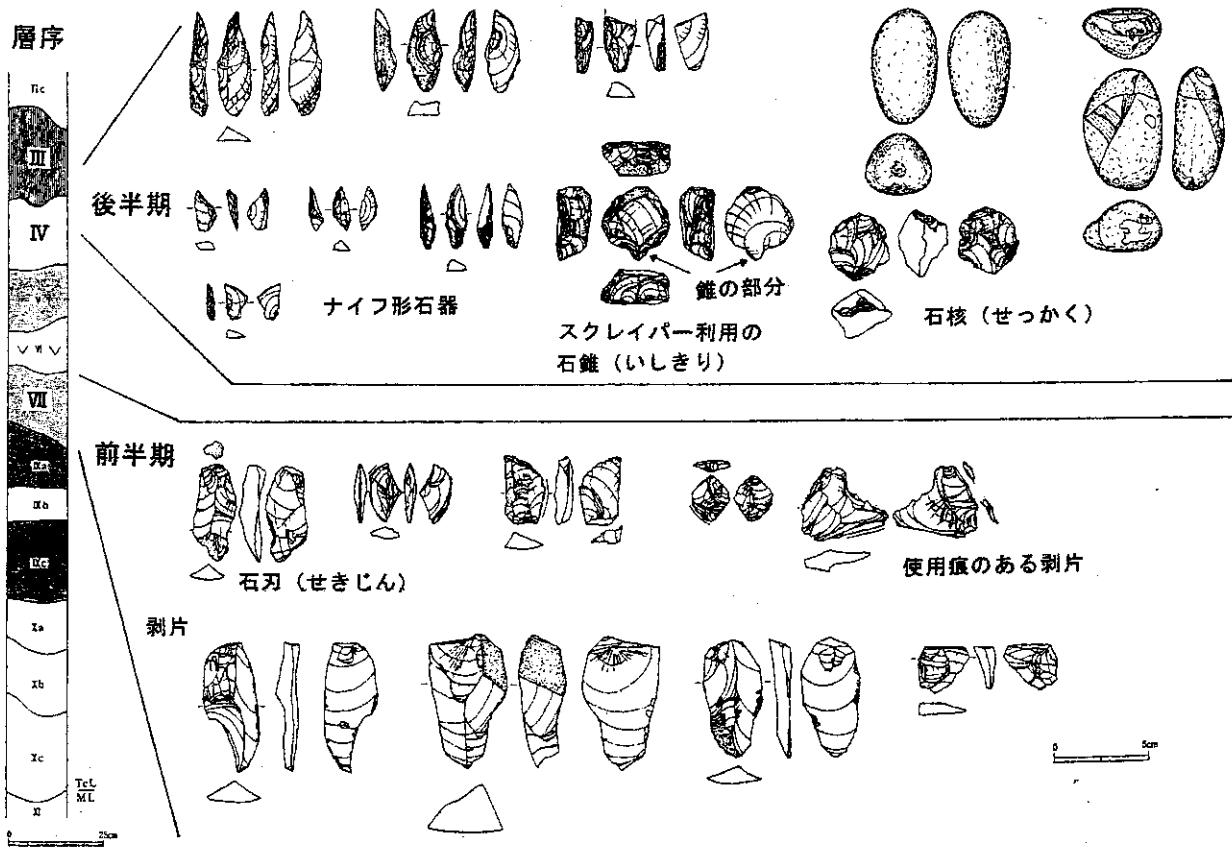


浅間内遺跡と周辺の遺跡



浅間内遺跡各地点遺構配置図

浅間内の旧石器



【浅間内遺跡の石器時代】 今回は、石器時代について少し詳しくご紹介します。かつては、台地の麓に湧水が数箇所あったそうで水の便が良く、遺跡の南に広がる辺田前・沖塚前低地は、採集や狩猟の絶好の場所であったのかもしれない。

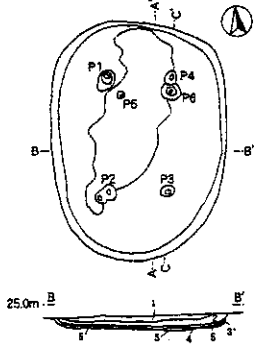
旧石器時代 今から2万4千年以上前に当たる後期旧石器時代前半期（VII層）の遺物と、約1万5千年前に当たる後期旧石器時代後半期（III～IV層）の遺物が出土しました。前半期の石器や剥片（はくへん＝石の破片）は、遺跡の東部で2地点、合計9点発見されました。後半期の遺物は、遺跡の西部で3地点発見され、最大の地点は、南北9m×東西7mの範囲で、安山岩を主とした剥片や石器や焼礫など480点が出土しました。石器製作場の跡と考えられます。特に小さいナイフ形石器は、小片まで使おうという意図が感じられ、石材に乏しいこの地域ならではの石器と言えましょう。

縄文時代 草創期に属する有舌尖頭器（ゆうぜつせんとうき＝槍先）、早期の撚糸文（よりいともん）土器が出ています。この土器は、市内出土の縄文土器としては最古クラスです。

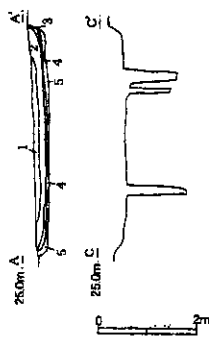
早期中頃から前期前葉までは空白期となり、前期中葉から再び遺物が出てきて、中期前半（阿玉台I b式）に最盛期を迎えます。住居跡2軒やピット多数、土器片や石器類など量・種類とも豊富です。黒曜石（こくようせき）の剥片も大量に出ており、おそらく石鏃（せきぞく＝やじり）を製作していたのでしょう。土器片錘（どきへんすい＝土器片に糸掛け用の溝を付けた重り、漁網用）も多く出土しています。狩猟・漁労や植物（ドングリなど）の採集などによって食料を得ていた様子が想像できます。

中期の中頃に再び空白期があり、中期後半から後期前葉に少量の土器片が認められますが、それ以降は弥生時代中期まで長い空白期となります。

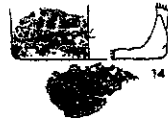
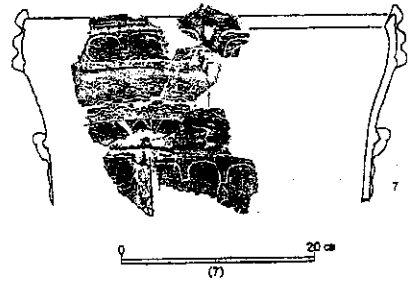
浅間内の縄文時代遺構・遺物



D52 住居跡 実測図



D52 住居跡と出土遺物



土器片鏝

有舌尖頭器



漆糸文土器

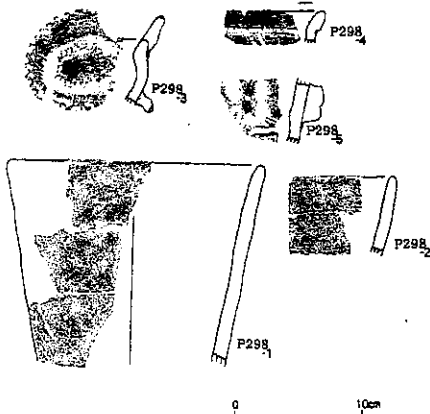


5cm

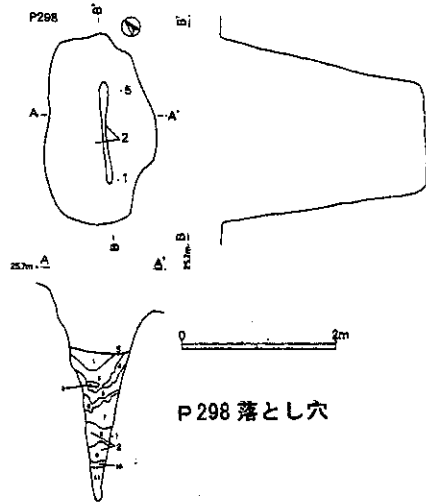
前期後半の土器



中期後半の土器

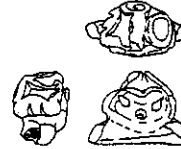


P298 落とし穴出土遺物



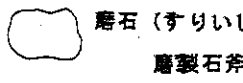
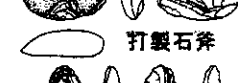
P298 落とし穴

中期前半の土器

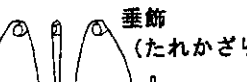


顔面把手 (がんめんにとって)

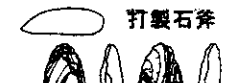
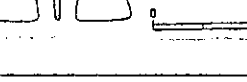
石鏝 (せきぞく)



石核 (せっかく)



垂飾 (たれかざり)



打製石斧

磨石 (すりいし)

磨製石斧

10cm

5cm

埋 (まい) やちよ No.14

—千葉県八千代市埋蔵文化財通信—

平成 19 年 9 月 10 日

編集・発行 八千代市教育委員会

社会教育課 文化財保護班

八千代市大和田 138-2

☎276-0045 ☎047(481)0304

—編集後記—

弥生時代以降の詳しい報告は、
次回以降に特集したいと思います。